

HUMANO

Vol.3

IYEOが発展していくために、協力しあいましょう!

日本青年国際交流機構が、社会に貢献できる団体として発展していくためには、各都道府県IYEOの活動充実と経験ある先輩と新しいメンバーの連携、新しい活動への取組、国際ネットワークの活用、効果的な情報交換など、できることやすべきことが数多くあります。

会員の皆さんと協力しながら、本部並びに都道府県役員一同がんばっていきたいと考えています。

IYEO活動発展のために、会員の皆さんからの寄付や情報提供のご協力をお願いします。

～IYEOの寄付活動について～

For Kumamoto 熊本地震の被害に対する支援金 ～支援活動継続のために～

<ゆうちょ銀行から>
加入者名:日本青年国際交流機構
口座番号: 00140-3-73972

<他行から振込>
銀行名: ゆうちょ銀行
店番号: 019(ゼロイチキユウ)
預金種目: 当座
口座番号: 0073972
口座名: 日本青年国際交流機構

IYEO 組織活性化への寄付 ～IYEO組織基盤作りのため～

<ゆうちょ銀行から>
加入者名:日本青年国際交流機構
口座番号: 00190-2-464228

<他行から振込>
銀行名: ゆうちょ銀行
店番号: 019(ゼロイチキユウ)
預金種目: 当座
口座番号: 0464228
口座名: 日本青年国際交流機構

一口1,000円から何口でも承ります!!IYEOはボランティアの任意団体です。そのため、寄付金控除の対象ではありませんので、ご了承下さい。

<寄付について>寄付をしてくださった方は、Email(iyeobokin@iyeo.or.jp)また、通信欄にて、下記ご連絡をお願いします。

- 1.氏名
- 2.会員番号(封筒に記載されている番号)
- 3.参加事業名
- 4.ホームページ寄付者名記載希望
- 5.住所
- 6.電話番号
- 7.メールアドレス



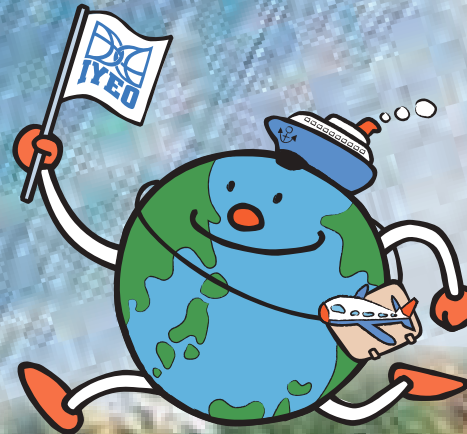
IYEO広報誌 **HUMANO** Vol.3
編集・発行 日本青年国際交流機構 (IYEO)
International Youth Exchange Organization of Japan
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階
電話:03-3249-0767 / FAX:03-3639-2436/ E-mail:humano@iyeo.or.jp



IYEOでは、右記のfacebookページ Twitter公式アカウントを運用しています。 facebook [iyeo] Twitter [iyeo]

CONTENTS

IYEO会長挨拶	1
IYEO活動計画	2
ワーキンググループによるIYEOの活性化	3
IYEO本部役員並びに都道府県会長紹介	5
地域における活動	7
「Visit熊本」ツアー/東日本大震災支援活動	9
メキシコ地震における緊急支援/IYEOキフギフト	10
平成29年度「世界青年の船」事業NL・SNLインタビュー	11
「東南アジア青年の船」事業参加青年による事後活動	
航空機による青年海外派遣報告会	12
中国派遣団同窓会/第14回日韓交流連絡会議	
「世界青年の船」事業 30周年記念同窓会	13
大橋玲子さんを偲んで	
IYEOの寄付活動について	





平成29年6月に前任の佐藤恵一会長の後を受けて日本青年国際交流機構(IYEO)会長に就任してからおよそ1年が経ちました。平成29年度は、IYEOにとってはいへん大きな環境の変化が起きた年になりましたが、その中でIYEOが本来行うべきことは何か、どのような存在であるべきかということを見つめ直すことができました。

「IYEOが、今後も今まで以上に面白く、刺激的で、魅力的な団体であり続けるためにはどうすればよいか」

その一つの答えとして、ワーキンググループによるIYEOの事業運営を取り入れていきたいと考えています。IYEOの活動は、都道府県IYEOによる地域ごとの活動が基本となりますが、会員のための研修や、広報などについては、IYEO全体で取り組んでいるものもあります。これまでは、そういったものについては、本部役員や運営委員が中心となっていたため、マンパワー的にも、アイデア的にも、限られたものになっていました。しかし、近年の情報通信機器の発達により、都道府県境はおろか国境まで軽々と越えてコミュニケーションを容易に取れる時代になっていますし、IYEOには全国の豊かな人財が揃っています。

今年度からは、広く全国の皆さまに関わっていただき、皆さまのアイデア、技術、ネットワークなどをいかして、事業を実施していきたいと考えています。提案のあった事業については、IYEOの活動方針などに照らし、事業として取り上げるかどうか判断し、実施する判断をしたものについては、その旨を広く情報発信し、一緒に推進するメンバーを募るなどして、全国の会員がワーキンググループに関われるようにしてまいります。全国の皆さまからアイデアをいただき、関わっていただきながら、IYEOをさらに活性化していきたいと考えています。

「IYEOはどのような存在で、どのようなことを行っていけばよいか」
IYEOの会員は、幅広い世代をカバーしており、それぞれ地域における多様なネットワークを持ち、それぞれの分野でプロフェッショナルとしての技術を備えるなど、まさに人財の宝庫であります。

日本では、「地域の『産官学金労言』各界を結び付けて、地方創生を進めよう!」としていますが、IYEOはまさにその結びつけ役になれるのではないのでしょうか。特に、私たちの海外での経験をいかした「地域の次世代の育成」においては、中心的な役割を果たせるのではないかと考えます。地域への貢献を通じて地域を活性化し、IYEOも活性化するという、Win-Winの形を目指したいと考えています。

3年前のIYEO設立30周年のときに、今後10年を見据えて掲げたスローガンは、「創る。つながる。新しいIYEO。」です。

ワーキンググループによる運営は、都道府県の枠組みを超えた「つながり」によって、「新しいIYEO」の仕組みを「創ろう」というもの、地域への貢献の推進は、IYEOの「つながり」をいかして地域に貢献し、「新しいIYEO」の形を「創って」いこうというものです。

平成30年度を「新しいIYEO」を創っていく最初の年として、内閣府、一般財団法人青少年国際交流推進センター、内閣府青年国際交流事業の国際ネットワークをはじめ関係団体等との連携を大切にしながら、新たな体制のもとで進めてまいります。

全国の皆さま、共に頑張ってまいります!

日本青年国際交流機構 会長 高下正晴

平成30年度 日本青年 国際交流機構(IYEO)活動計画

I. 活動方針

「社会でリーダーシップを発揮できる 人材育成を目指して」

現代のグローバル社会においては、幅広い視野を持って柔軟に新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされている。平成27年の日本青年国際交流機構設立30周年を機に、次の10年を見据え、内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと事後活動組織として半世紀を超え築き上げた実績とネットワークをいかし、社会で活躍できる人材育成に取り組む。

また、全国の会員が有機的につながり、互いの活動をより良くしていく活動を推進し、さらなる組織の活性化に取り組む。

II. 主な活動分野

第1分野: 青少年分野についての活動の啓発

- (1) 全国の会員からの意見をまとめて、国の子ども・若者施策に対して提言書を提出
- (2) 国及び地方自治体の青少年に関する法律及び条例の普及・啓発への協力
- (3) 若者の人材育成並びに意識啓発を目的とした独自の自主事業への取組
- (4) 社会活動の推進
- (5) 青少年分野にかかわる公的な場への人材推薦及び積極的発言
- (6) 他団体との連携

第5分野: 都道府県IYEO及び会員の ネットワーク強化と活性化

- (1) 全国大会、ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)などの開催
- (2) 都道府県IYEO間の連携強化の取組
- (3) 各事業の既参加者の縦のつながりを促進する取組による国内ネットワーク強化
- (4) 会員同士の学びあいの推進
- (5) 幅広い年齢層の会員に対応した情報共有の推進
- (6) 会員情報の把握強化

第6分野: 国際協力活動

国内外で起きる災害や諸問題に対する各国の事後活動組織と連携した取組

1. 青年層活性化の基盤づくりに取り組もう

社会活動における青年のニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組むべく、国に対して青年施策についての提言を積極に行う。同時に、これまで培ったノウハウを次世代へ継承するとともに、他団体との連携等による地域活動の促進、青年による社会の活性化を目指す。

2. 地域社会を活性化するとともに地域に貢献できる 人材育成に取り組もう

地域における国際交流活動を含む社会活動に積極的に取り組み、世界との距離を狭めるとともに、地域のニーズに合った貢献ができる人材の育成に努める。

3. 国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう

国内外における様々な課題に対応するため、国際協力活動を推進し、社会に貢献していく。

第2分野: 地域の活性化に資する活動

- (1) 地方自治体及び地域と連携した事業の実施
- (2) 地域課題解決に向けた国際的視野と専門性をいかしたフォーラム等の開催
- (3) 地方自治体や他団体と連携して、地域の特色や特徴的な取組の国内外への発信
- (4) 国、地方自治体又は他団体等と連携した、東京オリンピック・パラリンピックへの協力

第7分野: 内閣府青年国際交流事業の外国参加青年とのネットワーク

- (1) 「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織との国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)
 - ① SSEAYPインターナショナル総会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SSEAYPインターナショナル事務局担当国としての対応
- (2) 「次世代グローバルリーダー事業・世界青年の船」事業参加及び後継事業参加64か国の事後活動組織との国際連携組織(SWYAA)
 - ① SWYAA国際大会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SWYAA事務局としての対応
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした日本・中国青年親善交流事業の中国既参加青年との連携
 - ① 中国との交流プログラムの推進
- (4) 日本・韓国青年親善交流事業の韓国既参加青年との連携
 - ① 「日韓交流連絡会議」の開催
- (5) 国際青年育成交流事業の交流国であるドミニカ共和国とバルト3国のネットワーク形成
- (6) 「地域コアリーダープログラム」のネットワーク形成

日本青年国際交流機構設立30周年プロジェクト (次の10年を見据えた重点的な取組)

目的: ①国際交流を通じて、リーダーシップを発揮できる青年を育成する
②継続的に青少年分野においてリーダーシップを取れる団体としての対外的認知度を上げ、社会的信頼を厚くする。

ねらい: 世界にネットワークを持つ全国レベルの青少年団体として、次の3点の実現を目指す。

- ①グローバルなマインドを持って活躍できる青年を育成し、地域の活性化に貢献する。
- ②IYEOの活動やIYEO会員の活躍を積極的に発信することでブランド力を高める。
- ③行政や他団体と連携することで、青少年団体の中核を担う。

テーマ: 創る。つながる。新しい IYEO。

第4分野: 内閣府青年国際交流事業の受入れへの協力 及び自主事業による外国青年受入れ／派遣

- (1) 内閣府青年国際交流事業のプログラム内容への提言
- (2) 行政・団体等との連携による地元青年を含めての受入実行委員会の組立て
- (3) 地域での受入プログラムのアレンジ
- (4) 地域産業並びに多様な分野との連携による外国青年の日本理解促進
- (5) 団体及び大学との連携によるディスカッションプログラムの組立て

第8分野: 広報活動への積極的取組

- (1) 内閣府青年国際交流事業募集広報への協力
 - ①年間を通しての内閣府と連携した広報活動の工夫
 - ②事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③大学での事業説明会への協力
 - ④企業への内閣府と連携した働きかけ
- (2) 団体をアピールするための広報
 - ①広報誌「HUMANO」の発行
 - ②インターネットやソーシャルメディアを使った広報の充実

第9分野: 財政基盤及び組織体制の確立

- (1) 入会者の着実な確保
- (2) 自主財源の確保の具体的な取組
- (3) 組織運営上の課題の共有と継続的な運営のための仕組みの構築

ワーキンググループによる IYEO の活性化

平成30年度から、IYEOはワーキンググループによる活性化を推進します。

これまで、都道府県IYEOをつなぐ役割、IYEO全体としての広報、都道府県IYEOの役員研修、IYEO全体の周年記念プロジェクトなどについては、本部役員や運営委員が中心となっていました。今後はワーキンググループ形式で、本部と都道府県IYEO、そして会員の皆さん一人一人の力を更にいかしながら、様々な取組を進めていきます。

各ワーキンググループの活動は、6月下旬より始動する予定ですので、ぜひ積極的に関わってみてください。また、新しいワーキンググループについての会員の皆さんからのご提案も期待しています。



ワーキンググループ

ワーキンググループ

ワーキンググループ

ワーキンググループ

ワーキンググループ

■ワーキンググループの活動

都道府県IYEOによる地域での活動、IYEO会員がチャレンジ・ファンドを利用して実施している事業などは、主には地域の人たちや、国際交流に興味のある人たちのためのものですが、ワーキンググループとして行う活動は、IYEO全体の課題を解決し「IYEO全体のためになる活動」が対象となります。

■ワーキンググループの分野

現在、本部として課題を感じている分野(例)は以下のとおりです。ここに挙げたようなIYEO全体の課題を解決するため、ワーキンググループをつくっていきます。各ワーキンググループは6月下旬(予定)より始動し、ホームページでご確認いただけます。全国の会員の皆さんの中で活動に関わる方、ぜひ事務局へお知らせください。(secretariat@ieyo.or.jp)

分 野	現状と課題
①主財源を生む取組	・現在の主な収入源「入会金」に加え、「事業収入」「寄付」の割合を高め、複数の収入源により財政基盤の強化を図る ・将来的に自主財源を全体の30%程度まで高めたうえで、IYEOの運営にかかる支出へ充当していくことを目標とする
②内閣府青年国際交流事業の応募者増	・内閣府青年国際交流事業の応募者の増加を図る ・内閣府とともに事業のPRに協力し、事業の応募者増を実現する必要がある
③IYEOの広報強化	・内閣府事業既参加者の事後活動組織として、IYEOも更なるPRが必要 ・広報戦略を立て、対象と訴求内容を考える必要がある ・幅広い年齢層のIYEO会員がいる中で、会員全体への情報発信ツールを検討していく
④オリンピック・パラリンピックの活用	・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、全国で関連イベントが行われる。地域に根差した国際交流活動を行っているIYEOとしての貢献を考えたい ・オリンピック・パラリンピックへの関わりを機に、IYEOのさらなる活性化につなげたい
⑤都道府県 IYEO の活動のサポート	・各都道府県IYEOでは、他の参考になる自主事業や事務処理軽減につながる工夫など、さまざまなナレッジと経験を有している ・都道府県IYEOが互いに学び合い、共有する場を作ること、活動の相互サポートが生まれ、IYEO全体の底上げにつなげたい

これらの分野以外でワーキンググループを立ち上げることも可能です。

※最初から全国で取り組むのではなく、例えばブロック単位で取り組んでノウハウを蓄積してから、といったものでも可。

■ワーキンググループ立上げの手順

ワーキンググループ立上げの提案は、IYEO会員であればどなたでも可能です(ただし、ワーキンググループの活動内容を本部役員及び都道府県IYEO役員が把握することとする)。

以下の手順に従い提案されたワーキンググループの企画は、幹事会で審査のうえ、承認された企画が実行されます。

- ①ワーキンググループ企画書を作成
- ②企画書を担当の幹事宛に送付
(所属する都道府県会長、ブロック幹事にもその旨を連絡)
- ③IYEO全体の取組とすることを幹事会で決定
(IYEOの活動方針と合致しているか、という視点で審査)
- ④実施の支援と、状況のフォロー
(本部による広報協力、支援の呼びかけ)

日本青年国際交流機構 本部役員並びに都道府県会長紹介

IYEOは、ボランティア組織として歴史を重ねてきました。運営は、基本的に仕事を別途持った無償ボランティアの役員によって運営しており、本部役員と47都道府県ごとに組織を置いて役員体制をとっています。

全国都道府県IYEOの役員を御紹介したいところですが、ここでは、本部役員と都道府県会長を紹介させていただきます。

会員の皆さま、都道府県IYEOの役員メンバーに、是非ともコミュニケーションを取ってくだされば幸いです。

【表記について】

- 平成30年(2018年)4月1日現在 最初に参加した事業を掲載
- 事業略称：航空機派遣(派遣先)

青年の船(船)、グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」(SWY)東南アジア青年の船(東ア)

世界青年の船(世界)、青年社会活動コアリーダー育成事業(コア)、日本・中国青年親善交流事業(日中)、日本・韓国青年親善交流事業(日韓)、県単派遣事業(県単)

IYEO本部役員一覧			平成30年度4月1日現在
役 職	氏 名	参加事業	
会 長	高下 正晴	H2世界(3回)	
副会長(国際)	白鳥 正信	H5東ア(20回)	
副会長(組織)	本田 温子	H10世界(11回)	
副会長(広報・PR)	長末 辰也	H12世界(13回)	
副会長(活性化)	田中 純子	H7世界(8回)	
副会長(地方)	石崎 好章	H13日韓(15回)	
ブロック幹事			
北海道・東北	伊勢 みゆき	H12世界(13回)	
関 東	松川 裕子	H3東ア(18回)	
北信越	樋口 敦子	H5世界(6回)	
東 海	白木 邦貞	H17世界(18回)	
近 畿	寺西 由佳	H12世界(13回)	
中 国	更田 匡史	県単	
四 国	坂本 愛	H9東ア(24回)	
九 州	村本 きよみ	H10世界(11回)	
幹事			
事務局長	田畑 静吾	H16東ア(31回)	
事務局次長	鹿島 健	H22日韓(24回)	
事務局次長	尾張 大陸	H24コア(11回)	
幹事(船事業)	小島 まき子	H20世界(21回)	
幹事(航空機事業)	小田 玲美	H19日中(29回)	
幹事(広報・PR)	池田 隆行	H21世界(22回)	
幹事(活性化)	大郷 和成	H25コア(12回)	
監査			
監査役	野村 隆紹	H6日中(16回)	
監査役	赤木 功	H7世界(8回)	
顧問及び参与			
顧問	大河原 友子	S62東ア(14回)	
参与	中野 智昭	S61船(20回)	
参与	田中 克宜	S54アフリカ(21回)	
参与	上杉 聖次	S54船(13回)	
参与	吉岡 誠	H21日韓(23回副団長)	

IYEO事務局員一覧		
事務局員	川島 菜穂	H23東ア(38回)
事務局員	川嶋 伸明	H14日韓(16回渉外団員)
事務局員	神戸 知子	H13東ア(28回)
事務局員	桑原 真哉	H17チリ(12回)
事務局員	洲崎 長子	H5世界(6回)

最新の情報はウェブサイトをご覧下さい。
http://www.iyeo.or.jp

近畿
ブロック
滋賀 京都 大阪
兵庫 奈良 和歌山

中国
ブロック
鳥取 島根 岡山
広島 山口

九州
ブロック
福岡 佐賀 長崎 熊本
大分 宮崎 鹿児島
沖縄

北信越
ブロック
新潟 富山
石川 福井 長野

北海道・東北
ブロック
北海道
青森 岩手 宮城
秋田 山形 福島

関東
ブロック
茨城 栃木 群馬 埼玉
千葉 東京
神奈川 山梨

東海
ブロック
岐阜 静岡
愛知 三重

四国
ブロック
徳島 香川
愛媛 高知

滋賀県青年国際交流機構 苅森 千恵 H18世界(19回) shigaiyeo@yahoo.co.jp

京都府青年国際交流機構 荒田 圭久 H1世界(2回) kyotoiyeo@hotmail.co.jp

大阪府青年国際交流機構 岩井 美紀江 H13世界(14回) osakaiyeo@gmail.com

兵庫県青年国際交流機構 末廣 邦子 H15日韓(17回) iyeo.hyogo@gmail.com

奈良県青年国際交流機構 小野 智恵美 H21日中(31回) iyeo.nara@gmail.com

海友会(和歌山) 出羽 正典 H16日中(26回) kaiyukai.iyeo@gmail.com

とっとり青友会 河崎 忠義 H6東ア(21回) tottoriseiyuukai@yahoo.co.jp

国際ネットワークしまね 池田 俊貴 H20コア(7回) inshimane@gmail.com

岡山県青年国際交流会 長木 愛 H12東ア(27回) okayamaiyeo@hotmail.co.jp

広島県青年国際交流機構 兼友 昭典 H20東ア(35回) hirosima.iyeo@gmail.com

山口県青年国際交流機構 山田 耕慈 H18世界(19回) y_iyeo@yahoo.co.jp

福岡県青年国際交流機構 有吉 美幸 H22カンボジア(17回) iyeo.fukuoka@gmail.com

佐賀県青年国際交流機構 牟田 菜央子 H21世界(22回) sagaiyeo@gmail.com

長崎県青年国際交流機構 山田 公美 H16コア(3回) ※hq@iyeo.or.jp

熊本県青年国際交流機構 生野 朋子 H26 SWY kumamotoiyeo@gmail.com

大分県青年国際交流機構 田中 一旭 H25コア(11回) oita.iyeo@gmail.com

宮崎県青年国際交流機構 荒武 千穂 S58東ア(10回) ※hq@iyeo.or.jp

鹿児島県青年国際交流機構 高田 奨 H24コア(11回) kagoshimaiyeo@gmail.com

沖縄県青年国際交流機構 岸信 朋 H24世界(25回) okinawa.iyeo@gmail.com

北海道・東北
ブロック
北海道
青森 岩手 宮城
秋田 山形 福島

北海道青年国際交流機構 鹿野 芽衣 H24世界(25回) hokkaidoiyeo@yahoo.co.jp

青森県青年国際交流機構 佐藤 彩子 H16日韓(14回) aomoriyeo2015@gmail.com

岩手県青年国際交流機構 高橋 直幸 H21世界(22回) iwateiyeo@yahoo.co.jp

宮城県青年国際交流機構 伊勢 みゆき H12世界(13回) miyagi.iyeo@gmail.com

秋田県青友会 エヨング 宏枝 H14世界(15回) iyeo.akita@gmail.com

山形県青年国際交流機構 堀野 那菜 H21東ア(36回) ※hq@iyeo.or.jp

船と翼の会ふくしま 山崎 庸貴 H14日韓(16回) funetotubasa@hotmail.co.jp

関東
ブロック
茨城 栃木 群馬 埼玉
千葉 東京
神奈川 山梨

茨城県青年国際交流機構 深谷 めぐみ H4世界(5回) ibaraki-iyeo@hotmail.co.jp

栃木県青年国際交流機構 熊倉 百合子 H15中国(25回) tochigiyeo@gmail.com

群馬青友会 岡村 和代 県単派遣 gunma_seiyukai_iyeo@yahoo.co.jp

埼玉県青年国際交流機構 富田 美和子 H11世界船(12回) saitamaiyeo@gmail.com

千葉県青年国際交流機構 石原 裕文 H19カンボジア(14回) chibaiyeo@gmail.com

東京都青年国際交流機構 神戸 知子 H13東ア(28回) tokyoiyeo@yahoo.co.jp

神奈川県青年国際交流機構 大野 裕章 H17東ア(32回) iyeokanagawa@yahoo.co.jp

山梨県青年国際交流機構 松川 裕子 H3東ア(18回) ※hq@iyeo.or.jp

東海
ブロック
岐阜 静岡
愛知 三重

岐阜県青年国際交流機構 大野 麻未 H17世界(18回) iyeogifu@gmail.com

静岡県青年国際交流機構 山口 貴美 H28世界(29回) shizuoka.iyeo@gmail.com

愛知県青年国際交流機構 高山 将宏 H15日韓(17回) info@iyeo-aichi.jp

三重県青年国際交流機構 白木 邦貞 H17世界(18回) mie-iyeo@hotmail.co.jp

四国
ブロック
徳島 香川
愛媛 高知

徳島県青年国際交流機構 塚本 大志 H27ドミニカ共和国(22回) iyeo_tokushima@googlegroups.com

香川県青年国際交流機構 菅 圭介 H15世界(16回) kagawaiyeo@gmail.com

愛媛県青年国際交流機構 菊間 彰 H15世界(16回) e-iyeo@hotmail.co.jp

高知県青年国際交流機構 前田 正也 S55船(14回) Kochiiyeo@outlook.jp

地域における活動

IYEOは、各都道府県に青年国際交流機構(独自の名称の場合あり、P5-6参照)を組織し、各都道府県が実施している青年国際交流事業に参加した青年たちとも連携を取りながら活動しています。

都道府県ごとのIYEO会員数は100名~1800名と幅広いため、それぞれ活動の規模は違いますが、都道府県IYEOの1年間の活動の流れを知っていただくために全国の事例を交えながら一つの事例にして紹介します。

〈1年間の活動事例〉

〈平成30年度の都道府県IYEOの主な活動予定〉

4月

役員会、都道府県庁担当所管課への御挨拶
内閣府での二次試験に向けたアドバイス会

5月

総会実施

6月

地域の留学生との交流会(独自事業)

7月

今年度派遣者壮行会実施
(各都道府県IYEOで実施)

7月~2月

各地で様々な内閣府青年国際交流事業の
地方プログラムを受入れ(8ページ、受入一覧参照)

7月~3月

ブロック大会実施
(全会員が対象、8ページブロック大会開催一覧参照)

9月

総会実施

10月

地域活動への協力(他団体との協力)

12月

千葉県で全国推進会議(都道府県の代表者)、
全国大会(全会員が対象)を開催

1月~3月

平成31年度の内閣府青年国際交流事業
の参加青年募集開始、各都道府県IYEO
で事業報告会及び翌年度の事業説明会
を実施

2月

全国推進会議

3月

活動実績報告書整理

7月~2月



7月~3月



ブロック大会実施(全会員が対象)

平成30年度ブロック大会開催一覧			
ブロック	開催県	開催日(案)	会場
北海道・東北	山形県	9月1日(土)~ 2日(日)	村山地方
関東	千葉県(全国大会)	12月1日(土)~ 2日(日)	佐倉市ユーカリが丘
北信越	長野県	H31年 3月9日(土)~10日(日)	調整中
東海	岐阜県	11月10日(土)~11日(日)	岐阜県下呂市
近畿	大阪府	11月3日(土)~ 4日(日)	調整中
中国	鳥取県	10月13日(土)~14日(日)	米子市周辺
四国	香川県	7月21日(土)~22日(日)	高松市周辺
九州	長崎県	H31年 1月26日(土)~27日(日)	調整中

平成 30 年度内閣府青年国際交流事業の受入一覧

●国際青年育成交流 (9月29日~10月7日)	高知県、広島県、函館市、青森県、和歌山県、 京都府
●日本・中国青年親善交流 (8月24日~9月1日)	岩手県、沖縄県
●日本・韓国青年親善交流 (7月30日~8月5日)	滋賀県、岐阜県
●東南アジア青年の船 (10月25日~10月29日)	山形県、福島県、栃木県、神奈川県、山梨県、 新潟県、長野県、愛知県、奈良県、岡山県、山口県
●明治150周年記念 世界青年の船 H31年(1月17日~1月20日)	宮城県、大阪府、三重県、徳島県、宮崎県
●地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」 H31年(2月19日~2月24日)	熊本県、大分県、鳥取県



「Visit熊本」ツアー（熊本地震の被災地域への訪問）

日本のIYEOと同様に、「東南アジア青年の船」事業（SSEAYP）の参加各国（東南アジア10か国）でも事後活動組織が組織され、その国際的連携ネットワークとしてSSEAYPインターナショナルを結成しています。2017年は、1987年のSSEAYPインターナショナル結成から30周年を迎えるとともに、1967年の東南アジア諸国連合（ASEAN）設立から50周年を迎える記念の年であり、SSEAYPインターナショナル各国事後活動組織が主導して、日本とASEAN10か国で、それぞれの社会貢献活動「Project 30/50」に取り組みました。

この一環として、IYEOでは、地域への貢献をコンセプトに、2016年4月の熊本地震を忘れないために、熊本地震の被災地域を訪問して現状と課題を学び、熊本県地域の理解を促進すること、また、参加者が被災地域の現状について発信できるように促すことを目的として、2017年10月6日（金）～8日（日）、「Visit熊本」ツアーを実施しました。

日本及びマレーシアからの参加者10名と、実行委員9名が、特に被害の大きかった益城町や南阿蘇村の被災農家を訪れ、ボランティア活動を行いました。熊本県内では様々な所で復興が進みつつあるものの、まだまだ長い時間が必要なこと、また、レジリエントな社会づくりの重要性を改めて感じました。



農業ボランティア（ビニールハウスの草刈り作業）



ボランティアガイド案内による熊本城復興工事視察

【活動内容】

10月6日（金）：益城町

13:30 熊本空港集合
14:00 バス内から被災地案内（益城町）
14:30 益城町役場にて熊本地震と復興の取組についての説明
17:00 防災士宮下正一さん（「青年の船」事業既参加者）の話、「みんなの家」吉村さんの話

10月7日（土）：南阿蘇村

10:00 喫茶店「まどか」（復興猪カレーの店）にて、ビデオ視聴及び佐野徳正さんの話
10:45 被災現場視察（阿蘇大橋陥落現場にて献花、立野病院）
13:30 白川水源訪問
14:45 農業ボランティア（ビニールハウスの草刈り作業）
19:00 ふりかえり会

10月8日（日）：熊本城

9:15 ボランティアガイド案内による熊本城復興工事視察
12:00 熊本城・城彩苑にて解散

東日本大震災支援活動

2011年の東日本大震災発生直後から、IYEOは様々な復興支援活動を行ってきました。近年は楽しみや笑いを共有する活動が主になっています。岩手県では、昨年6月に大きな笑いが響いた講師と詩人の夫婦ライブ、今年1月には会場に勇気を満ちた坂本達さん講演会を開催。そして、新潟県IYEO、船と翼の会ふくしま、岩手県IYEOが共同で実施している「チューリップ花絵大作戦」は、4年連続の開催となりました。福島では、高校生や大学生ボランティアに加え、親子での参加も増えるなど、地元の方の楽しみとなり、郡山市から感謝状が授与されました。また、岩手では、復興団地にできた公民館のこけら落としイベントで「チューリップ花絵大作戦」を開催するなど、県を超えて笑顔をつなぐ活動となっています。IYEOに関わるたくさんの方々の様々な形のご支援・ご協力によって、月日が経った今でも、これらの活動を東北で実施できていることに感謝いたします。



新潟県IYEOとチューリップ花絵大作戦



詩人桑原滝弥、講師・神田京子 夫婦幸福ライブ

【平成29年度東日本大震災支援活動】

福島県	郡山市	H29.4.30	新潟県IYEOとチューリップ花絵大作戦
岩手県	大槌町	H29.4.30	新潟県IYEOとチューリップ花絵大作戦
岩手県	陸前高田市	H29.6.4	詩人桑原滝弥、講師・神田京子 夫婦幸福ライブ
岩手県	宮古市	H30.1.24	坂本 達氏 チャリティトークイベント

メキシコ地震における緊急支援

平成29年9月19日にメキシコ合衆国で発生した、マグニチュード7.1の地震により甚大な被害が発生し、360人を超える死者と約4,700人の負傷者が確認されました。

こうした事態において、日本青年国際交流機構（IYEO）では、「世界青年の船」事業の参加国であるメキシコの事後活動組織（SWYAAメキシコ）へお見舞いメッセージを送るとともに、「日本青年国際交流機構大規模災害支援積立金に関する内規」に基づき、幹事会にて、お見舞金を拠出することを決定し、9月25日にSWYAA メキシコへ10万円相当を寄付しました。その後、会員より支援金を募り、IYEOからは総額で515,124円をSWYAAメキシコに送り、スウェーデン、チリ、フィジーなど海外からの支援金についても、合計10万円が送られました。

SWYAAメキシコのパトリシア・ロベズ会長からの報告によると、SWYAAメキシコ主導の緊急支援活動は2回実施されました。第1回目は9月23日から24日にかけて震源地のモレロス州とプエブラ州にて、第2回目は9月30日から10月1日にかけてオアハカ州にて、大きな団体からの支援が届かない村の人々に、緊急支援物資を届けました。



今後の中・長期計画としては、Amauni A.C.という非

政府組織を中心とした約25団体と協力して、震源地に近く大きな被害を受けたエカツィンゴとアトラウトラという村に、100棟の住居を建設することで、震災からの復興支援をすることになりました。



IYEOキフギフト～つながるIYEO、つながるおいしさ～

平成29年度「IYEOキフギフト」は、11の協力事業者より15の魅力的な商品が提供され、74口（会員62口、一般12口）、52名の参加により実施され、IYEOへの寄付総額は194,500円となりました。

申し込んでいただいた方からは、「社会貢献もできる素晴らしい企画」「最近は活動に参加できていないが、こういった形で協力できて嬉しい」「お歳暮・お年賀として注文し、受け取った方に好評」「会員の関わっている素晴らしい事業を知ることができた」「お値打ちで美味しい商品が届いた」とのコメントが届いており、商品到着後にFacebookにて、その喜びを共有される方も複数見かけました。

IYEOキフギフトチームは、こういったIYEO会員の方々とつながりがもたらす幸せや楽しみを実感しながら、プロジェクトの運営をすることができました。IYEOキフギフトは今後もIYEO事業として発展させていきますので、運営に興味がある方、協力事業者を紹介いただける方はぜひ御連絡ください。

IYEOキフギフトチーム 本田、田村、小島、池田（ウェブサイト担当）
Email: kifugift@iyeo.or.jp

「IYEOキフギフト」

協力事業者

（IYEO会員含む）

- 岩手大学農学部（岩手県滝沢市）
 - パン・菓子工房oui（宮城県南三陸町）
 - 北山崎レストハウス（岩手県田野畑村）
 - 佐藤農園（岩手県滝沢市）
 - 芝原水産（徳島県鳴門市）
 - 昇子さん手作り工房（岩手県盛岡市）
 - しろくまジャム（静岡県静岡市）
 - たみこの海バック（宮城県南三陸町）
 - Dari K（京都府京都市）
 - 南三陸おふくろの味研究会（宮城県南三陸町）
 - 南三陸復興ダコの会（宮城県南三陸町）
- 魅力的な商品のご提供、ありがとうございました

IYEOキフギフトとは？

IYEOの活動充実のための財政強化を目的に実施するプロジェクト。申込者に、全国のIYEO会員及びその関係者が手がける特産品等（＝IYEOからのギフト）を贈ると同時に、金額の一部をIYEOへの寄付（＝IYEOへのギフト）とする。ギフトの交換により、申込者・IYEOの双方がハッピーになることを目指す仕組み。IYEO会員はもとより、IYEOに縁がある方々に、日本各地の魅力的な商品や特産品を知ってもらうことで、IYEOネットワークの価値を高め、IYEOファンを増やし、活動の活性化につなげる。



平成29年度

「世界青年の船」事業(SWY) NL・SNLインタビュー

日本ナショナルリーダー 小島まき子さん(写真左)

サブナショナルリーダー 白木 邦貞さん(写真右)

■プログラムを終えた時の気持ちは？

(小島)日本参加青年(JPY)が一人も欠けることなく、無事に下船し全プログラムを終了できたことに、ホッとしました。また、プログラムが終わった時の一人一人の表情から、彼らの成長や変化を感じ取ることができ、うれしく思いました。

■ナショナルリーダー(NL)、サブナショナルリーダー(SNL)として心がけていたことは？

(小島)参加青年たちの可能性を信じて見守りつつ、何かあればできる限りサポートしたり励ましたりすることを心がけていました。また、話しかけやすいように、自分から明るく挨拶するようにしました。

(白木)学びたい、チャレンジしたいというみんなの気持ちと行動を応援すべく、視野を広げたり、視座を上げたり、受け身ではなく主体的にプログラムに取り組んだりできるよう、エンカレッジしようと努めました。

■最も印象に残っている嬉しかった瞬間と、苦勞したエピソードは？

(小島)嬉しかった瞬間は、日本のナショナル・プレゼンテーション(NP)のパフォーマンスがうまくいって、達成感でいっぱいのみんなの顔を見た時です。また、最後にJPYみんなから感謝の手紙をもらった時にもジーンときました。

(白木)苦勞したことは、たくさんありすぎて選べないです(苦笑)。120人以上もの個性豊かなメンバーたちとどう向き合っていけばいいの、答えのない問いを追い続けたことですね。でもプログラムが終わる時に、参加青年たちが本当に楽しそうに船の思い出を話しているのを見て、大変だったこと、苦勞したことはいろいろあったけれど、努力が報われたような気がしました。

■リーダーの経験を今後どういかしていきたいですか？

(小島)このような大人数のグループのリーダーを務めるのは初めてで、良い経験ではありましたが、「もっとこうすればよかった…」という後悔もたくさんあります。今後、自分に不足していると感じた要素やスキル(アサーティブ・コミュニケーションなど)を磨いて、自分なりのリーダーシップをさらに模索していくとともに、将来のNLに対して情報共有や相談会を行うなどして、自らの経験をフィードバックしたいと思います。また、SWY全体のネットワーク強化に尽力します。



(白木)SWYは本当に人生を変えるくらいの魅力と機会を与えてくれる事業だと思います。そんな素晴らしいプログラムの核となっているコンセプトや、いろいろな仕掛け・仕組みをもっと可視化して、船事業だけでなく様々な人材育成のプログラムに展開していきたいと考えています。

■お二人は事後活動に積極的に関わってこられました、参加青年に今後期待したいことは？

(小島)今回の経験を、様々な場において共有してもらいたいですね。そして、船で得たことを日常生活でもいかせるよう、どんな小さなことでもいいからアクションを起こしてほしいと思っています。

(白木)船での学びを深め、人生をより豊かにしていくためにも、SWYスピリットを持ち続け、自分が大切にしたい分野や地域でぜひ事後活動を展開してほしいです。

(小島・白木)Keep SWYing!



日本のナショナル・プレゼンテーション終了後の集合写真

「東南アジア青年の船」事業参加青年による事後活動

第43回「東南アジア青年の船」事業参加 青木大輔さん

次の世代へ紡ぐ国際交流の輪

「中学生や高校生の頃にこの事業を知っていたなら」「英語をもっと勉強しておけばよかった」「この素晴らしい時間をもっとたくさんの人に知ってもらいたい」にっぽん丸に乗船中の事後活動について考えるディスカッションで複数の日本参加青年が口々に言っていた言葉です。私たちの事後活動は「東南アジア青年の船(SSEAYP)」事業をもっと人生の早い時期にたくさんの人に知ってもらいたい、海外ってこんなに楽しいんだよという経験を共有し、英語や海外を知るモチベーションを高めたい。そんな思いから事後活動「SHARE-UP」が始まりました。

事後活動「SHARE-UP」とは？

SSEAYPでの体験を中高生などの若い世代へ"SHARE"する、また共有することで英語学習や海外を知るモチベーションを"UP"する、というSSEAYPの発音をもじった名称になっており、全国の中学・高校へ出張授業という形で国際交流の楽しさを伝えてきました(これまで青森県、神奈川県、山梨県、愛知県の中学、高校、大学の計8校



で出張授業を実施)。他にも福島県の現状を知る活動(福島対話キャンプ)、SNSでの情報発信(NT隊)など各人の問題意識や興味に沿った事後活動を展開してきました。

今後も各地IYEOに所属するSSEAYPの先輩方とも世代を越えて連携しながら、若い世代に国際交流の楽しさ、すばらしさを知ってもらう活動を続けていきたいと思っています。

航空機による 青年海外派遣報告会

平成29年度(2017年度)内閣府青年国際交流事業航空機による青年海外派遣の報告会が平成30年2月4日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われました。

約100名の一般来場者の方々にお越しいただき、参加青年による事業報告や成果発表、訪問国のブース展示などを行い、大変有意義な報告会となりました。



中国派遣団同窓会

平成29年度中国派遣団同窓会は熊本県南阿蘇村にて、平成30年1月20日～21日に開催され、36、37団が合同で幹事を担当し、16～39団まで19名の中国派遣既参加者が集いました。

総会では同窓会会長の引継ぎ、南阿蘇村の吉良清一村長からの挨拶を始めとして「既参加青年としてできる事後活動」をテーマとしたディスカッション、39団の派遣報告、中国時事クイズやAIIB、一帯一路に関するミニ講座と意見交換等が行われ、夕食時には地元の伝統舞踊団体「わらべ」による舞踊を鑑賞、翌日は阿蘇火山博物館と震災や豪雨の爪痕が今なお残る地域を視察しました。



第14回日韓交流連絡会議

平成30年2月23日～25日、第14回日韓交流連絡会議が大阪府立青少年海洋センターにて開催され、日韓両国47名の青年たちが集いました。

今回はTalking SessionとWorking Sessionがメインで、Talking Sessionでは「日韓友好促進のための政策を作ろう!」「本音で語ろう、日韓のこれから」「ランゲージ・エクスチェンジ」、Working Sessionでは「関西空港制限エリア見学ツアー」「和歌山県梅酒作り体験ツアー」「灯り作り体験教室と講演」「わくわく食品サンプルづくり体験ツアー」を実施しました。



「世界青年の船」事業 30周年記念同窓会

2018年3月3日に、東京・永田町にて「世界青年の船」事業(SWY)30周年記念同窓会が開催されました。第1回から30回までほぼ全ての事業から、予想を超える253人の参加者が集まりました。

SWYの醍醐味は、乗船時だけではなく、先輩後輩含めて多様な才能やスキルを持った人達が世代を超えて身近にいること、そしていつでもIYEOという場を介して支え合う関係でいられることです。今回の同窓会は「縦の繋がり」の醸成、「30周年記念プロジェクトの立ち上げ」をテーマに企画されました。

同窓会は①20チームに分かれて事業参加後の自分について振り返りつつ、事後活動案を考えるワークショップ ②実際に行われている事後活動の紹介を交え、投票で選抜された5チームによるプレゼンテーションと30周年記念事後活動プロジェクトの決定 ③食事をしながら、下船直後のSWY30メンバーへのインタビューや事業の様子を上映し、世代や事業を超えて交流を深めるという3部構成で行われました。冒頭から活発な自己紹介や意見交換が行われ、多くの素晴らしい事後活動案が共有されました。記念プロジェクトとして選ばれた「SWY Hub」は、「世界青年の船」事業の人材をつなげるプラットフォームを作るというもので、事業の既参加青年の「やりたい!」という



気持ちをつなげるすばらしいアイディアでした。SWYだけでなく、IYEOにも展開できる可能性もあり、実現を検討していきます。

※同窓会の当日の様子は以下のウェブサイトをご参照ください：
<https://swy30threunion.wixsite.com/swy30th-reunion/blog>

大橋玲子さんを偲んで

日本青年国際交流機構(IYEO)前会長代理の大橋玲子さんが、平成29年8月9日(水)午後11時34分に御逝去されました。1980年第14回「青年の船」(JYGC)に参加されたのち、「青年の成長のためには、知らない世界で自分が通用するかをチャレンジできる場が必要であり、質のよい国際交流事業は最も適切な場」と考えられ、青年層が成長していくための仕組み作りとしてのIYEO設立から運営、国際交流を通して大切な考え方を後輩に伝えるなど、37年間国際交流とIYEO活動の中で中心的な役割を果たされました。

平成30年2月10日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟レセプションホールにて「故大橋玲子氏を偲ぶ会」が行われ、全国より151名の大橋さんに御縁のあった方々が一堂に会し、122名の方々より献花の形で気持ちを寄せていただきました。生前の大橋さんについての尽きない話のみならず、会場に集まった方々が互いの近況を確かめ合っている姿に、大橋さんがそれぞれの人生に与えたであろう影響力や、人と人をつなぐ力を感じた時間でもありました。

偲ぶ会は、黙祷の後、日本青年国際交流機構高下正晴会長の挨拶から始まり、献花を行ったあと大橋さんの軌跡をまとめたスライドショーを囲みました。スライドショーを見ながら大橋さんの国際交流への熱い想いや功績について集まった皆が思いを馳せる姿が印象的でした。大橋さんと共にIYEOの礎を築いてこられた坂田清一(一財)青少年国際交流推進センター副理事長、松田敏明元内閣府政策統括官やJYGC14回の前田正也さんのお話を伺い、大橋さんがいかに困難な場面であっても揺るぎない強い想いを持って国際交流に尽力してきたかを知りました。また、平成14年度第16回日本・韓国青年親

〈大橋玲子 プロフィール〉

昭和28年6月1日東京生まれ
昭和52年中央大学法学部 政治学科卒業
昭和53年より自由民主党職員、衆議院議員小沢一郎事務所、インターナショナル・フェローシップ事務局長を経て、平成6年より財団法人青少年国際交流推進センター勤務
総理府青年国際交流事業第14回「青年の船」団員として参加
IYEO事務局長、副会長、会長代理を歴任
平成29年3月 一般財団法人青少年国際交流推進センター事務局長定年退職



善交流事業副団長の久保直子さん、平成28年度第23回国際青年育成交流事業(ドミニカ共和国派遣)副団長の滝川望さんからのお話では、若い世代への道しるべとしてその教えが受け継がれていることを感じました。大橋さんの思いは間違いなく会場の中に存在しており、参加者一人一人の心の中にそれぞれの形で根づいていることを皆が確信する会となりました。

当日配布したしおりには、大橋さんのIYEOについての考え方をまとめた寄稿文を掲載しましたが、IYEOリレーブログでも御覧いただけますので紹介します。

<http://blog.livedoor.jp/ieyoblog/archives/1068433923.html>



心を満たすひとときを

ひとたび船に乗りこめば、新たな感動の待つ旅の始まりです。

初めて見る景色に、新しい出会い、心を打つ体験の数々。

船上では、おいしい食事にエンターテインメント、あたたかなおもてなしを。

より思い出深く、大切な旅となるように、

にっぽん丸はお客様一人一人に寄り添います。

撮影：中村 風詩人

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

クルーズデスクフリーダイヤル 9:30~17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階
商船三井客船 ☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>